

# 平成18年度 教師海外研修（派遣国：サモア国）実践報告書

1. タイトル 「サモアを知ろう」

2. 氏名 古久保 功

学校名 田辺市立中山路小学校

担当教科 全教科

3. 実践教科 総合的な学習の時間

時間数 4時間

4. 対象生徒・学年 5・6年生（複式学級）

対象人数 16名

## 5. カリキュラム案

### （1）実践の目的

本校の「総合的に学習の時間」は「環境・人・文化」を3つの柱に取り組んでいる。国際理解教育は、その中の「文化」に位置づけている。低学年から、ふるさとの良さを発見し、自分の住んでいる地域のすばらしさに気づき、その特徴を表現してきている。そして、高学年では外国の文化を知り、自分が住んでいる地域・日本と比較することになる。今回の学習を通し、日本とサモアの共通点・相違点を知り、よりよい地域作りの基盤となる意識を培い、世界的な視野で物事を考える態度を育てていきたい。また、外国文化を知り日本文化と比較することが実践の目的であるが、文化を創り出しているのは「人」である。サモアで活動している「人」にも目を向けさせ、児童ひとりひとりが自分の人生を考える機会にしたい。今後、国際協力に取り組んでいる方に授業してもらうことも考えている。今回のサモアの実践はその入り口ともしていきたい。

### （2）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ:サモアを知る ねらい:サモアの文化を知り、日本文化と比較することができる。	(1)サモアにあるもと、ないものを考える。 (2)サモアの写真を見て、サモアについて考える。	(1) プリント (2) サモアで収集した写真
2限目 テーマ:サモアを知る ねらい:サモアの文化を知り、日本文化と比較することができる。	サモアの写真を見て、それが何であるかを考える。	(1) プリント (2) サモアで収集した写真
3 限目 テーマ:サモアでの協力隊の活動を知る。 ねらい:協力隊の活動を知ることを通して、国際協力を考える。	協力隊の活動の様子の写真を見て、国際協力を考える。	(1) プリント (2) サモアで収集した写真
4 限目 テーマ:サモアを知る ねらい:サモアの文化を知り、日本文化と比較することができる。	DVDを見ながら、今まで学習したことを振り返る。	(1) プリント (2) DVD

## 授業の詳細

授業を行った学級は、5年生8名、6年生8名の複式学級である。本校へはモンゴル国の方やドミニカ国の方が教育研修に訪れている。モンゴル国とはハイパーミラーを使って、児童同士の交流も行った。そんな環境の中、外国や外国の方への児童の興味・関心は強く、私が研修に行く前から、サモアはどこにあるか、サモアはどんなところか知りたがっていた。

サモアの授業は当初の計画通り12月に入ってから行った。児童はこの日を本当に楽しみにしていた。

### 第1時限

教室ではなく図書室で行った。まず、16名を5つのチームに分けた。チームの分け方は、事前研修で教えて頂いた方法を使った。サモアの写真を白黒でA4にプリントアウトし、それを切り、そのピースを選んでつなぎ合わせることによってチーム分けができるようにした。サモアの綺麗な風景や私の写真を使った。つなぎ合わせるのがとても楽しかったようである。チームごとにテーブルについてもらったあと、チームの写真をスクリーンに映し出ししながら、説明していった。「この写真、カラーやったら綺麗やろなあ。」と子どもがつぶやいたので、しめしめと思った。子どもたちから、「綺麗！」という声が上がった。また、私の写真が写ると笑いがおこった。授業の導入である雰囲気づくりはうまくいった。

そして、本時の中心である「ある・なクイズ」のプリントを配った。配ると同時に子どもたちは考え始めていた。考えている間は、サモアの曲を流した。なかなかいい雰囲気だと感じた。テンポよくリズム感のある曲である。いろいろな曲ではなく、曲を絞りサモアの曲を耳に焼き付けていきたいと思った。(体育科の「体づくり運動」の時にも流すことにした。)

33問出題したのであるが、サモアに行ってきた者には簡単だと思っても、子どもたちには難しいようである。当たり前のことなのであるが、そのことを再認識した。予定よりも時間がかかった。答えを出し終わるまでに、15分位かかった。他のチームの考えや考えた根拠なども話しあわせる予定であったが、時間がとれなかった。

スクリーンに写真を映し出ししながら、解答と説明をしていった。子どもたちは一喜一憂しながら、答えを聞いていた。

最後に次の時間の予告をして、感想を書いてももらった。感想には「楽しかった。」「次が楽しみ。」「サモアに行きたい。」という言葉が多くみられた。「意外と日本とかわらない生活をしている」という感想もあった。今回は、日本との共通点が中心になる展開であった。次回は、相違点に目を向けさせていく授業展開にしたいと考えた。

また、今回の授業を学校長・教頭・事務職の3人の先生方が参観して下さった。「日本と比較しながら授業を進めていく必要がある。」とのアドバイスを頂いた。

### 第2時限

今回は「これは何でしょう。」をテーマに、児童に考えさせる授業を行った。サモアの曲を流しながらチームに分けておこなった。最初は「ごみ置き場」の写真を見せて考えさせた。「檻」とか「バスケットのゴール」などなかなか正解がでない。児童は正解したいので、「日本にありますか。」「物を入れます

か。」「この学校にありますか。」など、質問攻めである。写真を映し出しているスクリーンに近づいたり、私のパソコンをのぞき込んだりする児童もいて、すごく時間がかかった。1問5分と考え、8問用意していたが、半分の4問しか扱うことができなかった。日本との文化の違いを知り、驚いている児童が多かった。問題に対する質問が多かったので、質問のルールを考えてべきであった。

### 第3時限

前回の問題の続きの4問を行った。質問を少なくしたので20分で終わることができた。残りの時間で、サモアで活動している協力隊を紹介した。学校の先生、きのこ栽培の協力隊の方、自動車整備のSVの方、ゴミ処理の指導をしている方などを紹介した。サモアで活動している日本人がたくさんいることを知って児童は驚いたようである。「かっこいい。」とか「わざわざ、サモアに行って働くのがすごいと思った。」という感想があった。協力隊の生き生きと活動している様子が伝わったのだと思った。

### 第4時限

今まで学習したサモアを振り返り、より理解を深めてほしいと思い、短いDVDを紹介した。写真とは違い動きがあるので、児童はすごく興味を持ち、身を乗り出して見ていた。後ろに座っていた児童は前にやってきた。歓迎の音楽、ファイヤーダンス、ウム料理、自然などの様子を見て、児童の口からは、「わあ、きれい。」「かっこいい。」「おお、すげえ。」などの言葉が発せられていた。その後、サモアの学習を終えての感想を書いてももらった。

### 反省点・所感・今後の改善策

計画の段階では、4時間あれば十分だろうと考えていたが、4時間では扱いきれなかった。こちらが一方的に紹介しただけの授業だったのではないかと反省している。今回の4回の授業では、児童ひとりひとりがサモアというものを学習しただけで、児童の思いがクラスで共有されていないのである。子どもたちのつぶやきや思いを拾い上げ、それをクラス全体に返しながらか、クラス全体で考えていく授業をしていくべきであったと思っている。例えば、「サモアの協力隊の方をかっこいい。」と思った児童がいたのであるが、「なぜかっこいいと思ったのだろう。」「どこがかっこいいのだろう。」ということを考える授業にしていかなければならないと思った。そうすればもっと協力隊の活動を理解することができたはずである。あと、3時間くらいは必要であると思う。

今回の授業を同じ地域に住む先生方にも紹介していきたいと考えている。次年度は龍神地区の他の先生がこの海外研修に参加してほしいなあとと思っている。

この授業を実施するにあたり、多くの方々にお世話になった。アドバイスを頂いたサモア同行の先生方、きめ細やかな事後指導をくださるJICA大阪の方々、そして本校の学校長・教頭・事務職の先生、それから私の授業をずっと楽しみにし、サモアの体験を共有してくれた16名の児童に本当に感謝している。この取り組みの中で、私自身は多くの日本の方の優しさに接することができたと思っている。サモア研修を通して、身近な方々と自分自身の生き方を考えることができた。



## 「これは何でしょう」に使った写真



## 「サモアで活動している人」で使わせていただいた写真

